2011年サンクスギビング特別集会

標　語

主の回復の唯一の中心点は、三一の神の証し、
すなわち、三一の神の団体の表現、イエスの証しです

ローマ人への手紙第8章は、
全聖書の中心点と宇宙の中心です。

神のエコノミーの中心点は、ミングリングされた霊、
すなわち、神聖な霊と人の霊とのミングリングです。
この霊は、主の霊でもあり、またわたしたちの霊でもあります

わたしたちは予防する者また新契約の奉仕者として、
主の回復の中心点の中に生きる必要があります。

2011年11月24日―11月27日

サンクスギビング特別集会のメッセージアウトライン

主題：主の回復の中心点

メッセージ　1

主の回復の中心点を見る必要

聖書：エペソ3:16-17前半，19後半．啓1:2，9，12，20．2:5．
Ｉテモテ3:9，15-16

Ｉ．わたしたちは主の回復のビジョンを持つ必要があります――このビジョンはわたしたちを改革し、支配し、制御し、指示し、保護し、真の一の中に保ち、大胆に前進させます――箴29:18前半．使徒26:19：

Ａ．わたしたちが主の回復のビジョンを持つなら、神の目標に向かって導かれ、わたしたちの生活は神のエコノミーにしたがって支配されます――Ｉテモテ1:4。

Ｂ．主の回復に関する主の心にあるものについて、もしわたしたちが明確で強力なビジョンを持たないなら、内在的に回復の中におらず、わたしたちが行なうことはむなしいのです――参照、ローマ2:28-29．Ｉコリント15:2，14，58．Ｉテサロニケ3:5。

Ⅱ．主の回復はあらゆることで唯一です――エペソ4:4-6：

Ａ．回復の中で、わたしたちは唯一の神、唯一のご計画、唯一のエコノミー、唯一の働き、唯一の道、唯一の務め、唯一の中心点、唯一の目標を持っています――Ｉコリント8:6．エペソ1:4-5，　9-14．3:9-11．4:12-13，16。

Ｂ．主の回復は、唯一の務めによって、唯一のご計画、唯一のエコノミー、唯一の道、唯一の働き、唯一の中心点を回復することです――ローマ8:28-29．Ｉテモテ1:4．Ｉコリント15:58．16:10．Ⅱコリント3:8．4:1．5:18。

Ⅲ．主の回復の唯一の中心点は、三一の神の証し、すなわち三一の神の団体の表現です。この中心点はイエスの証しです――エペソ3:16-17前半，　19後半．Ｉテモテ3:9，15-16．啓1:9，12，20：

Ａ．神の当初の意図は、人が神の命と性質を受け、それによって彼の表現となるということでした。主の回復は神の団体の表現を回復することです

――創1:26．2:7-9．コロサイ1:15．Ⅱコリント3:18．コロサイ3:10。

Ｂ．召会は三一の神の団体の表現として、神の豊満です――エペソ1:22-23．3:19後半：

１．召会の最高の定義とは、召会が神の豊満、神の団体の表現であるということです――19節後半。

２．エペソ第3章16節から17節前半と19節後半でパウロが祈ったのは、三一の神がキリストの中でわたしたちの心の中にご自身のホームを造り、わたしたちの内なる存在が満たされて、三一の神の満ちあふれへと至り、三一の神を団体的に表現するということです。これが今日、神が回復したいものです。

３．召会はキリストのからだであり、三一の神の団体の表現として、四・一の有機的な実体、すなわち父、子、霊、からだがミングリングされて一となったものです――4:4-6。

Ｃ．エペソ第4章4節から6節にある四・一の有機的な実体は、啓示録第1章9，12，20節にある金の燭台、すなわちイエスの証しに符合します。金の燭台としての諸召会は、イエスの証しを担っています：

１．「イエスの証し」はすべてを含む言い方です――2，9節：

ａ．イエスの証しとは御子の証しであり、御子は御父と共に霊によって来て、地上で生活し、十字架上で死んで宇宙を清掃し、神聖な命を解き放ち、死人の中から復活して、命を与える霊と成りました。命を与える霊は御子として御父と共に来て、神性、人性、人の生活、十字架、復活と複合されています――ヨハネ1:14．14:17-18，20．Ⅰコリント15:45後半。

ｂ．そのようなすべてを含む証しが、イエスの証しです。この証しには象徴があり、それは金の燭台です――啓1:2，9，12，20。

２．金の燭台はイエスの証しとして、三一の神の具体化また表現です――12節：

ａ．金の燭台には三つの主要な要因があります：

(1) 燭台全体は金です。この燭台は金色であるだけでなく、金そのものであり、父なる神の神聖な性質を表徴しています――Ⅱペテロ1:4。

(2) 金は明確な形状をしており、その様には意義があり、御子キリストが神たる方の具体化、御父の性質の具体化であることを表徴します――コロサイ2:9．1:15。

(3) 神の表現のために輝く七つのともし火は、神の七つの霊です

――啓1:4．3:1．4:5．5:6。

b．燭台において、わたしたちは父、子、霊を見ます。ですから、金の燭台は三一の神の具体化また表現です。

c．これがイエスの証し、すなわち三一の神の証し、三一の神の表現としての召会です――1:12，20．2:1，5。

d．金の燭台としての召会の中に、御父の性質、御子の具体化、その霊の表現があります。これが召会の輝きの本質であるべきです――マタイ5:14-16．エペソ5:8．ピリピ2:15-16：

(1) 召会が輝かし出す光、すなわち召会から輝き出る証しは、三一の神でなければなりません――エペソ3:16-17前半。

(2) わたしたちは召会生活と日常生活の中で行なうあらゆることで、御父の性質、御子の具体化、その霊の表現で構成された金の燭台の明瞭で、顕著で、強い証しを担わなければなりません――啓1:20。

D．そのような証しを担うことは、信仰の奥義を保つことです――Ｉテモテ3:9：

1．信仰とは、わたしたちが信じる神の新約エコノミーの内容です――エペソ4:13．テトス1:1，4．ユダ3節。

2．パウロは「奥義」という言葉を使うのは、神の奥義としてのキリストと、キリストの奥義としての召会を指してのことです――コロサイ2:2．エペソ3:4-6。

3．Ｉテモテ第3章9節の文脈によれば、信仰の奥義には召会が含まれているべきです。なぜなら、召会はキリストにある神と、命を与える霊としてのキリストをもって構成されているからです。これは燭台の構成に符合します――啓1:12，20：

a．燭台が父、子、霊で構成されているように、召会も神聖な三一で構成されています――エペソ4:4-6。

b．召会は神聖な三一の中で生ける神をもって構成された、生ける有機体であり、神の団体の現れです。これは召会であるだけでなく、召会生活、すなわち召会の生かし出すものでもあります――Ｉテモテ3:15-16。

4．こうして、召会は、金の燭台が三一の神の団体の表現を輝かし出すものです。これが主の回復の中心点、すなわち三一の神の証しです――啓1:2，9，12，20。

©2011 Living Stream Ministry